

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
ESDとサブカルチャー			
英語科目名			
前後期		履修期	開講区分
前期		1期	
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野3
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週木曜日3時限目			
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください(ダブルブッキングを避けるため)。			
共同担当教員			
野村卓(ルネッサンスアカデミー)			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本講義では「持続可能な社会」を目指すための手法のひとつであるESD(持続可能な開発のための教育)をテーマにして、国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について、受講生と一緒に考えていきます。受講生にとって身近な例を取り上げ、その現状等を解説をしていくと共に、ワークショップ形式で受講生が自ら考え、学んでいくスタイルをとります。</p> <p>現在、日本は「環境立国」を標榜していますが、目標とする社会像として「持続可能な社会」、「循環型社会」、「低炭素社会」などを掲げています。特に地球規模の気候変動(いわゆる地球温暖化)については、1988年にアメリカ上院の公聴会で取り上げられてから約20年が経っていますが、各国はその対応をいまだ模索しているところです。このような地球規模の問題はメディアを通じて伝えることが多く、一般市民に対するその影響力は非常に大きいと言えます。近年、特に大きな影響力を持っているもののひとつとして、サブカルチャーであるマンガやアニメの存在を挙げることができます。本講座ではマンガやアニメのストーリーの中で取り上げられている世界観を題材にし、フィクションの中で描かれている「環境問題」、「食糧問題」、「エネルギー問題」、「水資源問題」、「科学技術と社会」をテーマにしたワークショップを行います。ワークショップを通じて「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていきます。具体的な教材として、1979年に初放映された「機動戦士ガンダム」を題材のひとつとして取り上げることを予定しています。</p>			
学習目標			
<p>受講生が「自ら問題を発見・考察・分析・整理・発表する」という一連の流れを通じ、社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。この講義を通じて、持続可能な開発(sustainable development)に関わる諸問題を多角的な視点から事象を見て考察する経験をし、受講生が将来、実社会での情報発信・情報共有に活かせるようにしていきたいと思っておりますので、受講生には積極的な参加(単なる出席ではなく発言すること)を求めます。なお、情報発信の訓練として、課題等(A4用紙1枚程度)を最低2回提出してもらいます。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>第1回目の授業ではガイダンスを行いますので、必ず出席してください。その際、履修希望者の関心がどのようなどころにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業では講義とグループワークを組み合わせで行っていきます。そのため授業時間外にグループ毎の作業のための連絡をとりあう必要が出てくると思います。</p>			

- (1) ガイダンス (萩原豪)
- (2) 持続可能な社会 (萩原豪)
- (3) 持続可能な社会 (萩原豪)
- (4) 食資源問題I (野村卓)
- (5) 食資源問題II (野村卓)
- (6) 食資源問題III (野村卓)
- (7) 水資源問題I (萩原豪)
- (8) 水資源問題II (萩原豪)
- (9) 水資源問題III (萩原豪)
- (10) エネルギー問題I (萩原豪)
- (11) エネルギー問題II (萩原豪)
- (12) 科学技術と社会I (萩原豪)
- (13) 科学技術と社会II (萩原豪)
- (14) 全体ワークショップ (萩原豪)
- (15) 総括 (萩原豪)

受講要件	成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。	授業態度30%、課題等提出物30%、グループワーク40%で総合的に判断します。出席が総授業数の3分の2未満の場合、または最終レポートの提出がない場合は評価対象外とします。

教科書	参考書
教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	手塚治虫『ガラスの地球を救え 二十一世紀の君たちへ』光文社(知恵の森文庫)、1996年。 堀公俊・加藤彰・加留部貴行『チーム・ビルディング 人と人をつなぐ技法』日本経済新聞社、2007年。 堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫、2008年。

その他

授業運営の関係から、受講者数は40名以内に制限します。グループワークを中心とするので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。履修登録人数が多い場合には抽選とします。

履修登録を行っても、第1回目の授業に出席しない場合、履修登録をしていても受講は認められません。